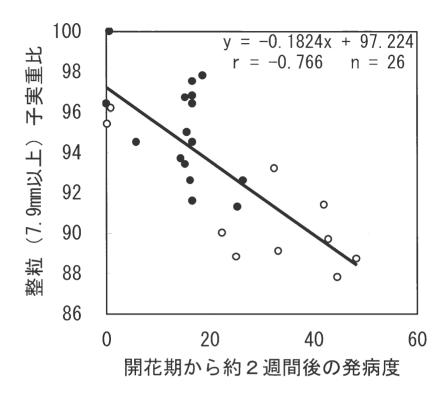
2			
	事	項	大豆のべと病の時期別の発生程度からみた健全粒の減収尺度
サンス く なる。この時期の発生程度をなるべく低く抑えるためには、健全粒の揺棄によて初発後~開花期質までの発生を抑制すること、べき病粒の形成を低減させる目的をねてこの時期に薬剤散布を1回行うこと、が有効である。 2 株内全展開業における時期別のべと病の発生程度と健全粒の減収尺度 発生程度(発程度) 以上)の子実重で 約2週間後 約3週間後 みた減収量	ねら	٧١	
第本生程度(発病度) 健全粒(整粒7.9mm 以上)の子実重で 約2週間後 約3週間後 約3週間後 以上)の子実重で 約2週間後 約3週間後 約3週間後 2 21 5.96 23 31 7% 40 47 10% 551 57 12% 21 5.96 23 31 7% 40 47 10% 551 57 12% 20 2 3 31 7% 40 47 10% 551 57 12% 2 3 31 3 7% 40 47 10% 551 57 12% 2 3 3 31 7% 40 47 10% 551 57 12% 2 3 3 31 7% 40 47 10% 551 57 12% 2 3 3 3 3 5 5 7 12% 2 3 3 3 5 7 12% 2 3 3 3 5 7 12% 2 3 3 3 5 7 12% 2 3 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 5 7 12% 2 3 7 12% 2			少なくなる。この時期の発生程度をなるべく低く抑えるためには、健全粒の播種によって初発後~開花期頃までの発生を抑制すること、べと病粒の形成を低減させる目的を兼
導	指	i	
**	導		開花期から 開花期から 以上)の子実重で
12	参	:	
四十 10% 51 12% 10% 51 12%			12 21 5 %
内	考	•	
窓 3 調査手順 (1) 2~3株について、1株当たりの全展開棄数を数え、調査時のおおよその棄数を握する。 (2) 1 圃場当たり 2 か所を任意に選ぶ。 (3) 1 か所当たり 20株について、下記基準により株毎の発生程度を調査し (例:40葉中病斑面積が2 薬分に相当すれば病斑面積5%)、発病度を算出する。 (4) 2 か所平均の発病度から減収量を推定する。 【株毎の発生程度別基準と発病度の算出法】 指数 0 :発病を認めない指数0.1 :株内の病斑数が1~数個指数 1 :病斑面積が株内全展開棄面積の5%以下指数 2 :同6~10% 指数 3 :同11~25% 指数 4 :同26~50% 指数 5 :同51~75% 指数 6 :同76%以上 ※ (発生程度別株数×指数)×100 ※ 発病度= ※ (発生程度別株数×指数)×100 ※ 表病度= ※ (発生程度別株数×指数)×100 ※ 表別は平成21年3月2日現在の農薬登録に基づいて作成した。 2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/j/ncaku/n_info/)を確認すること。 3 本資料の減収尺度は健全粒のみを対象に示しており、べと病粒の選別除去による減量を含んでいない。なお、無防除では、べと病粒の形成が粒重率で15%に達する事例ある。 担当部署 (治間後太) 平成18~19年度 青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 対象 地域 県下全域(指間後太) 平成18~19年度 青森県農林総合研究センター対験成績概要集	内		
(1) 2~3株について、1株当たりの全展開葉数を数え、調査時のおおよその葉数を握する。 (2) 1 圃場当たり 2 か所を任意に選ぶ。 (3) 1 か所当たり 20株について、下記基準により株毎の発生程度を調査し (例:40薬中病斑面積が 2 葉分に相当すれば病斑面積 5 %)、発病度を算出する。 (4) 2 か所平均の発病度から減収量を推定する。 【株毎の発生程度別基準と発病度の算出法】 指数 0 : 発病を認めない 指数 1 : 病斑面積が株内全展開葉面積の 5 %以下指数 2 : 同6~10%指数 3 : 同11~25%指数 4 : 同26~50%指数 5 : 同51~75%指数 6 : 同76%以上 至 (発生程度別株数×指数) ×100	, ,		31 31 12/0
発病度= 調査株数×6			病斑面積が2葉分に相当すれば病斑面積5%)、発病度を算出する。 (4) 2か所平均の発病度から減収量を推定する。 【株毎の発生程度別基準と発病度の算出法】 指数 0 : 発病を認めない 指数0.1 : 株内の病斑数が1~数個 指数 1 : 病斑面積が株内全展開葉面積の5%以下 指数 2 : 同6~10% 指数 3 : 同11~25% 指数 4 : 同26~50% 指数 5 : 同51~75% 指数 6 : 同76%以上
大豆のべと病による減収を軽減し、安定生産に寄与する。 1 本資料は平成21年3月2日現在の農薬登録に基づいて作成した。 2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/j/noaku/n_info/)を確認すること。 3 本資料の減収尺度は健全粒のみを対象に示しており、べと病粒の選別除去による減量を含んでいない。なお、無防除では、べと病粒の形成が粒重率で15%に達する事例ある。 担当部署 青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 対象地域 県下全域(担当者名) (岩間俊太) 平成18~19年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集			発病度=
1 本資料は平成21年3月2日現在の農薬登録に基づいて作成した。 2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/j/no aku/n_info/)を確認すること。 3 本資料の減収尺度は健全粒のみを対象に示しており、べと病粒の選別除去による減量を含んでいない。なお、無防除では、べと病粒の形成が粒重率で15%に達する事例ある。 担当部署 青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 対象地域 県下全域(担当者名) (岩間俊太) 平成18~19年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集			
利用上の注意事項 2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/j/no aku/n_info/)を確認すること。 3 本資料の減収尺度は健全粒のみを対象に示しており、べと病粒の選別除去による減量を含んでいない。なお、無防除では、べと病粒の形成が粒重率で15%に達する事例ある。 担当部署 青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 対象地域 県下全域(担当者名) (岩間俊太) 平成18~19年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集	期待され	る効果	大豆のべと病による減収を軽減し、安定生産に寄与する。
担当部署青森県農林総合研究センター 病害虫防除室対象地域県下全域(担当者名)(岩間俊太)平成18~19年度青森県農林総合研究センター試験成績概要集	利用上の注	主意事項	2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/j/nouaku/n_info/)を確認すること。 3 本資料の減収尺度は健全粒のみを対象に示しており、べと病粒の選別除去による減収量を含んでいない。なお、無防除では、べと病粒の形成が粒重率で15%に達する事例を
平成18~19年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集			青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 対象地域 県下全域
I .			平成18~19年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集

【根拠となった主要な試験結果】



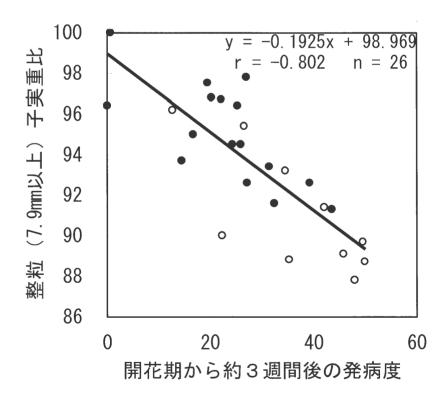


図1 大豆のべと病の発生程度と収量との関係 (平成18~19年 青森農林総研)

(注) 試験場所:青森農林総研田中圃場 品種:おおすず 播種日・開花期:平成18年6月12日・8月5日、平成19年6月6日・7月30日 ○:平成18年データ ●:平成19年データ